

厚生労働省によると平成24（2012）年時点で、65歳以上の15%、およそ7人に1人、462万人が認知症であり、「軽度認知障害」と呼ばれる予備軍が約400万人いると推計されています。長門市でも、介護保険の認定者（要支援・要介護）の中で認知症日常生活自立度Ⅱ（※）以上の人は6割を占め、何らかの支援や介護が必要になっています。

※認知症日常生活自立度Ⅱ
日常生活に支障を来たような症状や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる
認知症は誰にも起こりうる脳の病気によるもので、原因としては5〜6割をアルツハイマー型認知症が占め、次に、脳血管性認知症が2割となっており、残りの2割は原因が不明です。

認知症は脳の病気

認知症は誰にも起こりうる脳の病気によるもので、原因としては5〜6割をアルツハイマー型認知症が占め、次に、脳血管性認知症が2割となっており、残りの2割は原因が不明です。

主な症状

・体験や出来事全体を忘れて、思い出すことができない
（例：食事したことを忘れる）
・人、時間、場所が分からなくなる
（例：季節に合わない服装をしている。家

の場所が分からず戻れない）

・忘れたことの自覚がない
早期発見・早期受診・早期治療が決め手

他の病気と同じく、早期に見し治療を開始することで、症状や状態の悪化を遅らせることができます。ただ、家族や周囲が「おかしい」と感じて、自分が認知症かもしれないという不安は大きく、受診に消極的になってしまいがちです。

専門の精神科や神経内科への受診が一番ですが、かかりつけ医に相談することで専門医の受診につながることもありません。受診の際には日頃の状態がよく分かる人が同伴し、医師の様子を伝えましょう。

認知症サポーターの1人になりませんか

「認知症の人は何もわからない」は間違いです。本人や家族が一番不安を感じています。そんな認知症の人やその家族の助けになるのが「認知症サポーター」（応援者）です。

長門市の認知症サポーターは約3,100人

市では認知症サポーターを養成する講座（認知症サポーター

認知症について正しい理解を

9月 は 認 知 症 予 防 月 間

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守ることのできる地域をみんなで作っていきましょう。

養成講座）を平成18年から地域のサロンや各種グループなどを対象に開催し、平成25年3月末現在、3,114人のサポーターが誕生しています。
1人でも多くの応援者がいるまちにするため、市では認知症サポーター養成講座の講師派遣を無料で行なっています。講師派遣や認知症について気軽に相談してください。



認知症市民公開講座開催！

認知症について、身近に役立つ情報や家族の思いを届けます。認知症になっても安心して暮らせる地域づくりのために多くのみなさんの参加をお待ちしています。（申込不要・入場無料）

■とき 9/14（土）
13:30～16:00
（受付13:00～）

■ところ 長門市中央公民館
大講堂

■定員 400人

■内容

・体験発表「家族の思いをつないで」

発表者 **南部道夫氏**（長門



▲養成講座の様子

市認知症を支える会「ゆやつじの会」（家族の会）副会長）

・講演「認知症が心配になる症状と地域で支える方法」
講師 **川井元晴氏**（山口大学大学院医学系研究科神経内科学准教授・医師）



▲川井元晴氏

問い合わせ

福祉課高齢福祉係

TEL 23-11157

地域包括支援センター

TEL 23-1244